

本庶氏にノーベル賞



発行所
山形新聞社
〒990-8550
山形市旅籠町2-5-12
総合案内 023(622)5271
読者センター 023(622)5666
(平日9時30分～17時30分)
(c)山形新聞社2018

2018年
10月1日
〈月曜日〉

速報版 電子

やましん 新聞

特別号外

■やまがた
ニュースオンライン
yamagata-np.jp

■携帯・スマホ
yamagata-np.jp
/mobile/



詳しくは山形新聞を
ご覧ください。

医学生理学賞 がん治療法 開発

【ストックホルム共同】スウェーデンのカロリンスカ研究所は1日、2018年のノーベル医学生理学賞を、体内で異物を攻撃する免疫反応にブレーキをかけるタンパク質を発見した本庶佑（ほんじよ・たすく）京都大特別教授（76）に授与すると発表した。米テキサス州立大のジエームズ・アリソン教授との同時受賞。

本庶氏の発見は、さ薬「オプジーボ」として「がん免疫療法」のさまざまな臓器のがんにて実用化された。免疫時代を切り開いた日本効果が認められた治療の力を強め、がんと戦い発の成果が、最高の栄



インタビューに答える本庶佑・京都大特別教授 2016年8月、静岡市

誉に輝いた。

日本人のノーベル賞受賞は2年ぶり、26人目。医学生理学賞は16年の大隅良典東京工業大栄誉教授（73）に続く5人目。

本庶氏の研究チームは1992年、異物を攻撃する免疫細胞で働く遺伝子「PD1」を発見。がん細胞は、この遺伝子が作るタンパク質と結びついて免疫細胞からの攻撃を止め、増殖していることがその後、分かった。本庶氏らが小野薬品工業（大阪市）と開発したオプジーボは、免疫細胞のブレーキとがん細胞が結びつくのを防ぐことで、免疫にがんの排除を続けさせる

薬。2014年に皮膚がんを対象に発売し、肺、腎臓、胃などへと適応を拡大してきた。授賞式は12月10日にストックホルムで開かれ、賞金900万クローナ（約1億1500万円）が2氏に贈られる。

本庶 佑氏 1942年1月27日、京都市生まれ。山口県立宇部高、京都大医学部卒。米カーネギー研究所や米国立衛生研究所の研究員などを経て79年に37歳で大阪大教授に就任。84年に京都大教授となり、2017年特別教授。静岡県立大や神戸市の先端医療振興財団の理事長を歴任。免疫反応で多様な抗体が作られる仕組み「クラススイッチ」の発見もノーベル賞級の成果とされる。

購読・試読のお申し込みは▶ フリーダイヤル 0120-81-8040